

∞メール No. 29

会員の皆様

新型コロナウイルス感染症の流行は悪化し、現在、第4波が押し寄せています。まだ、この波は高くなりそうです。この悪化の原因の1つは新型コロナウイルスが進化し、変異株が加わったことも挙げられます。進化する生物は強いのでしょうか。

対応策の1つとして、日本でもワクチン接種が開始されました。新型コロナウイルス感染症に専門的にかかわる医療従事者には2月17日から、また、65歳以上の高齢者には4月12日からワクチン接種がなされています。その効果が現れ、元の日常が戻ることを待たれます。

前回の∞メールでは設立の当初から、条件反射制御法を用い、また、取締機関の抑止力を利用する態勢をもつ回復支援施設であるメビウス千葉を紹介しました。

今回は千葉ダルクを紹介します。千葉ダルクは名前のとおり、多くあるダルクの1つですが、他のダルクと大きく異なるのは、設立当初からのプログラムの中心であるミーティングを現在もしっかりと行いながらも、徐々に変化し、現在では条件反射制御法をプログラムの一部にして、また、取締機関の抑止力も利用する態勢をもちます。

他のダルクにも広まることを期待されます。

平井慎二

回復支援施設の紹介

一般社団法人 千葉ダルク

代表理事 白川雄一郎

ダルクは1985年6月に東京都の荒川区で開設された薬物乱用者に対応する日本で初めての民間の回復支援施設である。Drug Addiction Rehabilitation Center の頭文字をとってDARC-ダルクとよんでいる。

ダルクの基本的なプログラムはAA、NAの12のステップと12の伝統に基づいた自助グループ型のエンカウンターグループ形式によるミーティングで、これが全国にあるすべてのダルクで共通しておこなわれているプログラムである。

千葉ダルクは2003年4月に千葉県松戸市で全国32番目のダルクとして、その活動をスタートさせた。その後、2005年の千葉市への移転を経て2008年に長生郡に九十九里ハウス、2021年には長生郡にグループホームを2か所スタートさせて、千葉市中央区での生活訓練とともに障害福祉サービス事業所として活動している。

千葉市への移転を機に下総精神医療センターとの連携を徐々に強め、千葉ダルクのクライアントで下総精神医療センターに通院診療を受けている者は、その際に尿検査を実施してもらい、それ以外の対象者と職員は、月に二回の病棟でのメッセージの後に自費で実施していた。これらの自費での尿検査実施対象者も2006年から翌年の9月までは、千葉市の心の健康センターにおいて、嘱託医として勤務していた下総精神医療センターの平井医師による相談業務の一貫として、月に一度、無料で尿検査を実施していた。

過去には千葉ダルクのクライアントが違法薬物を再使用した場合、退寮させざるを得なかったのであるが、尿検査を導入した後は、彼らが千葉ダルクでの回復活動継続を望む場合は、下総精神医療センターに入院してデトックス(解毒)の処置と治療を受けること、並びに、定期的な麻薬取締官との面接を受けることを条件にして、千葉ダルクの利用再開を提案できるようになった。

彼らは、それを受け入れてくれ入院期間が終り千葉ダルクに戻ってきた後も、尿検査を受け、麻薬取締官との面接を続けた。

そのような尿検査の利用は∞連携に従ったものであり、千葉ダルクのクライアントによる違法薬物再使用時の処遇に選択の幅をもたらすとともに、尿検査という方法で自分の目でみて自らのクリーンを確認して、それを他のクライアントや職員と共有することで対象者の中に喜びと平安を生じさせた。そのことは施設内に良好な雰囲気をもたらした。

このことから2018年からはアルコールを含めた簡易薬物検査キットを用いて月に一回程度の職員を含めた全クライアントへの薬物検査を実施している。

また、2011年より、下総精神医療センターでCRCTを維持ステージまで終えたクライアントについては、千葉ダルク内で制御刺激と想像摂取のみを実施し、2012年からは職員体制を整えて、千葉ダルクデイケアセンターと九十九里ハウスの二か所で希望者の疑似摂取(偽覚醒剤と注射器を用いて静脈注射を真似する治療作業)を個別に実施することを開始した。当初は疑似摂取を毎日クライアントにさせるということは認知行動療法のいうところの最強の引き金に毎日さらすことではないかと他のダルクから大いに批判を受けたこともあるが、下総精神医療センターにおいてCRCTの疑似ステージと想像ステージで反応の発現とその低減を経験したクライアントは、千葉ダルク内でCRCTの維持ステージの作業を自

らすすんで続ける様子が見られ、自信や安心感をもって入寮生活ができるようである。

昨年（2020年）からは、下総精神医療センターで実習をうけた千葉ダルクの職員が、CRCTを受けていないクライアントに対しても制御刺激を設定し、過去の体験をノートに書き出す作業も始めた。この体験の書き出しは、NAの12ステップで行う過去の振り返りと共通する部分があるので導入しやすかった。

NAのプログラムにおいても、過去の振り返りをするが反省することを目的とせず、事実をしっかりと思い出す。CRCTと異なるところは、NAのプログラムにおいては、その事実を受け入れることが重要であるとしているところである。

今後もCRCTワークブックを有効活用して千葉ダルクで内でのCRCTを充実させていきたい。

（2021年4月5日 寄稿）

事務局等からのお知らせ

理事会の報告

2021年4月7日に開催された理事会の内容をご報告します。

1. 会計について

尾田事務局長から理事に向けて2020年度の会計報告がありました。2018年度と2019年度は皆様にご心配をおかけしましたが、今回は順調に進んでおります。

2021年度は会計事務所出身の方の協力を得て、会計業務を行います。

2. 援助側と刑事司法体系の連携発展のための活動

規制薬物使用を反復してきた患者の処遇に取締職員がもつ法の抑止力を設定するために、その者の同意を得て、警察に連絡し、法の抑止力を処遇に設定する方法に関して、今年2月と3月の理事会では、警察からの協力を得られそうであることが紹介され、話し合われました。4月の理事会では、その方法を元に、企業の職員を対象にして、薬物検出検査を行うことに関して、千葉県警に働きかけたことが紹介されました。保護観察制度の協力雇用主はそのような活動があれば歓迎するはずであり、需要は大きいことが予想されるなどの意見がありました。

3. その他

オンラインでの研究会や研修会について計画の詳細が徐々に固まってきました。参加費をクレジットカードで支払えるよう準備を進めていることが報告されました。

この∞メールの他の項にそれらの一部を記載します。

お支払い方法追加のお知らせ

ホームページでの各種お支払いに、クレジットカード決済の導入を進めております。学会誌（創刊号から最新刊）購入、年会費、各種参加費のお支払いが便利になります。従来通りの郵便振替での支払いも可能です。

CRCT を受けられる施設を公開しています

条件反射制御法を受けたい方に、どこにいけばこの技法が受けられるかを伝えるため、本学会のホームページで **CRCT 実施施設** を公開しています。

掲載されている施設数は、前回のお知らせから2施設増えて、現時点で26施設です。

ご協力いただける方は事務局のメール、crct.mugen@gmail.com 宛に下記項目をお送りください。

1. 貴施設名、所在地、電話番号、メールアドレス
(施設写真の掲載希望がございましたら画像データを添付してください)
2. 申込窓口（担当部署・担当者名等）
3. ホームページURL
4. CRCTを提供している場
(例：入院病棟、外来、カウンセリングルーム、回復支援施設等)
5. 対象にしている疾病
6. コンタクト方法（例：電話、E-mail、HP申込フォーム）
7. 施設の特長（フリーコメント なんでもどうぞ）

援助側と取締処分側の∞連携支持施設について

援助側から対応にかかわった患者による規制薬物使用への対応として、患者の治療意欲と社会の平安を保つ観点から効果的であり、また、司法の観点からも合法と考えられる方法を採用し、実行に移している施設を本学会のホームページ **∞連携支持施設** で公開しています。前回のお知らせから1施設増えて、現在6施設です。

∞連携に沿う態勢で実務をされており、当会のHPに∞連携支持施設として掲載させていただき施設の方は事務局のメール crct.mugen@gmail.com 宛にその旨のご連絡をくださるようお願いいたします。

条件反射制御法学会の案内

条件反射制御法学会第十回学会（主催：条件反射制御法学会）

日 時：2021年9月25日（土）10：00～18：00

場 所：オンライン

テーマ：トラウマと逸脱行動

条件反射制御法に関する研修会・実地研修等の案内

現時点で開催を予定している研修会を次に記します。

・オンライン研修会 シリーズ1

これまで集合して行っていた内容を4回に分けて、次のように行います。

1-1 7月 3日（土）10：00～12：00

ヒトが行動するメカニズムと反復行動をもつ者の要素と対応

1-2 7月10日（土）10：00～12：00

条件反射制御法の基本、体験の書き出し、制御刺激ステージ

1-3 7月17日（土）10：00～12：00

疑似ステージ、本能行動に対する技法の調整、さまざまなサティスフェイク

1-4 7月22日（木）10：00～12：00

想像ステージ、維持ステージ、技法と司法への影響

決定しましたら、ホームページで申込み受付を開始いたします。

・条件反射制御法実地研修

主催・実施場所：下総精神医療センター、定員：2名

2021年 5月24日（月）～ 5月28日（金）
2021年 6月21日（月）～ 6月25日（金） 満席
2021年 7月26日（月）～ 7月30日（金）
2021年 8月23日（月）～ 8月27日（金）
2021年 9月13日（月）～ 9月17日（金）
2021年10月25日（月）～10月29日（金） 残1席
2021年11月15日（月）～11月19日（金） 残1席
2021年12月 6日（月）～12月10日（金） 残1席
2022年 1月24日（月）～ 1月28日（金）

集合しての研修会は、現時点では開催時期未定ですが、ロールプレイ等を通じて、中枢の作用を体験的に理解し、その理解が現場での対応に活かされるように技法の詳細をお伝えします。

ご投稿について

条件反射制御法研究および∞メールへ奮ってご投稿ください。

宛先は、事務局のメール crct.mugen@gmail.com です。

●条件反射制御法研究

学会誌「条件反射制御法研究」は年に一度、発行します。その学会誌へのご投稿をお待ちしております。投稿規定は、最終号の巻末に掲載されています。

●∞メール

CRC Tや信号系学説に関係する小論、CRC Tを用いての治療体験あるいは回復した体験、実地研修の体験、他の学会で報告した感想、裁判でCRC Tの効果が認められた体験等に関して1600字程度の報告をお待ちしております。

発行

条件反射制御法学会事務局

〒162-0055 東京都新宿区余丁町14-4 NPO 法人アパリ内

<https://crct-mugen.jp> crct.mugen@gmail.com

TEL:090-3047-1573 FAX:050-3458-0214